

令和 7 年度事業報告書

令和 7 年度の公益社団法人町田市シルバー人材センター（以下「センター」という。）は、設立 45 周年の節目の年にあたり、第七次中期計画の重点項目である「会員拡大」「就業機会の確保と拡大」「安全・適正就業の推進」「組織強化」に取り組み、会員数及び契約額がいずれも前年度を上回る結果となりました。

契約額については、「請負・委任」「派遣」事業の合計値で前年度比 7.5%増の 10 億 6,539 万円となりました。内訳は、「請負・委任」事業が前年度比 6.7%増の 9 億 6,877 万円で、選挙関連や全戸配布等の大型業務の受託増により、契約総額が増加となりました。また「派遣」事業については、前年度比 15.4%増の 9,662 万円で前年度に引き続き保育関連業務等の人手不足分野に対する就業やトライアル就業の活用等により、昨年度に続き過去最高額となりました。

会員数については、前年度比 11 名増の 2,718 名（男性 1,734 名、女性 984 名）で WEB による入会や、チラシ配付、町内会・自治会の看板掲示、出張説明会等の会員拡大策を積極的に行いプラスとなりました。ただし、会員数については中期計画の目標値に達しておらず、引続き積極的な施策を講じていく必要があります。

安全・適正就業等については、残念ながら植木作業中の転落による死亡事故が発生しました。そして傷害事故は前年度より 6 件減少の 14 件、賠償責任事故は 1 件増の 9 件でした。また、特定の管理系職種の長期就業是正に向けたエントリー制度を引き続き実施し、適正な就業機会の確保を図りました。

そのほか、社会奉仕活動では、延 1,401 名が地域で奉仕活動を行い、デジタル化推進では、会員向けデジタル情報伝達ツール「Smile to Smile（通称：スマスマ）」の登録推進とスマホ初心者に向けた講習を昨年度に続き実施しました。また広報周知活動では、地域の子どもたちや大学等も含めた幅広い世代や分野と交流する「わくわくプラザ de 夏まつり」や「シルバー交流まつり」等のイベントに加え「45 周年記念誌」を発行しました。

組織面では、町田市との請負・委任契約について、フリーランス法（特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律）の趣旨を踏まえた「新たな契約方法」に移行が完了しました。令和 8 年度には、一部を除き民間契約を含めたほぼ全ての契約が移行する予定です。

以上、「いきいき わくわく 地域のシルバー」のスローガンのもと、設立 45 周年の節目を迎え、地域に根差した公益法人として今日まで活動が出来たことは、町田市をはじめ関係各所のご支援とご協力、市民の皆様の深いご理解とご協力、そして会員の皆様の真摯な活動の積み重ねによるものです。ここに改めて感謝申し上げる次第です。

項目別事業報告は、以下のとおりです。

契約額

事業区分	令和7年度	令和6年度	増減	比率
請負・委任	968,767,101 円	907,557,147 円	61,209,954 円	6.7%
労働者派遣	96,618,376 円	83,723,162 円	12,895,214 円	15.4%
合 計	1,065,385,477 円	991,280,309 円	74,105,168 円	7.5%

請負・委任事業内訳

事業区分	受託件数	実人員	延人員	契 約 額
請負・委任	11,785 件	2,225 人	176,863 人	968,767,101 円

労働者派遣事業内訳

事業区分	派遣現場数	実人員	延人員	契 約 額
労働者派遣	66 ケ所	177 人	14,038 人	96,618,376 円

I 会員拡大

1 入会促進

- (1) ハローワークの「シニア就職セミナー」及び「働きながら年金受給セミナー」において、入会案内（4 回）を行いました。
- (2) センターの主催や町田市との共催イベントのほか、「まちカフェ！」「町田市民文化祭」「コミュニティ福祉フェア」「成瀬コミュニティセンターまつり」「鶴川地区協議会ハッピーフライデー」等、市内の各種イベントに参加し入会案内を実施しました。
- (3) 入会説明会を定例開催 24 回行うとともに、出張等の説明会を 3 回実施のほか、自宅などでいつでも参加可能な WEB 入会を推進し、入会につなげました。
- (4) 入会説明会後に「知る場」にて、未経験分野への就業に対する不安等の解消を目的とした、入会希望者に対する懇談の場を設けました。
- (5) 就業体験と入会説明を兼ねた「保育のおしごと説明会」を開催しました。
- (6) 人手不足分野の人材育成のため、「襖・障子体験講習会」（3 名）を開催しました。

2 会員の満足度向上

- (1) 前年度未就業の会員に対する未就業会員 404 名の調査を実施し、会員の状況について更新しました。

- (2) 就業相談について、窓口対応のほか、毎月の定例相談会を 21 回実施し、延 119 名の相談がありました。
- (3) 会員を対象にした「男性向けフラワーアレンジメント体験教室」を開催(10 名)し、新しい知識や学び直し等の場を提供しました。
- (4) フリーランス法の対応に向けて「Smile to Smile (通称:スマスマ)」の普及拡大を図るため、「スマスマ登録相談会」を 40 回(162 名)開催しました。
- (5) 会員のスマホ初心者を対象とした「スマホ初級教室」を 5 回開催しました。
- (6) 退会抑制や仲間づくり、健康増進を目的に実施した「盆踊りの会」の終了後は、「共助会」と協力し、新たなサークルとして「輪おどりの会」が発足しました。

Ⅱ 就業機会の確保と拡大

1 会員のスキルアップ

- (1) 新入会員を対象とした「入会時研修」(マナー、安全就業、適正就業)を計 24 回(292 名)実施しました。
- (2) 会員が地域の支え手となるよう、「認知症サポーター養成講座」を入会時研修において実施しました。
- (3) 入会 1 年目の会員に向けて、主に接遇・情報管理・ハラスメント防止を内容とした「フォローアップ研修」を外部講師の下、計 8 回(220 名)実施しました。
- (4) 仕事別グループにおける自発的なミーティングを奨励するとともに、グループ会議や研修を(リーダー向け研修を含む)計 79 回(延 888 名)実施しました。
- (5) 子どもの見守り関連事業の就業前研修会(24 名)を実施しました。
- (6) (公財)東京しごと財団の研修として、「襖の張替え・障子の張替え」を(3 名)受講したほか、役職員研修に計 16 回(27 名)参加しました。また第七ブロック主催の研修や他組織の講習には計 15 回(26 名)参加しました。
- (7) 「新たな契約方式(包括的な契約関係)」の説明会を計 68 回(323 名)実施しました。

2 地域ニーズの把握

- (1) 民間の新規就業先の開拓のため、町田商工会議所へ入会しました。また、市内の高齢者関連施設や調理系企業を中心にダイレクトメール(54 件)を送付しました。さらに公共事業の受注拡大に向けて、市長への表敬訪問を

実施するとともに、指定管理者からの発注促進に向けた働きかけを行いました。

- (2) 多様化する会員の就業ニーズに応えるため「東京しごと財団」のトライアル就業制度を活用し、民間企業の事務系の新規就業を 4 件開拓しました。
- (3) 人手不足分野における就業会員の確保と養成のため、保育関連や植木の剪定に職種を限定した説明会を実施しました。
- (4) 地域の自主的な会員活動として受注拡大を目指す「一人一紹介運動」は 22 班 (26 件) の協力がありました。

3 発注者の満足度向上

- (1) 一般家庭等の仕事における技能職の後継者の育成や家事援助周辺事業について、「暮らしサポート隊」を通じて就業の拡大並びに発注者の待ち時間の短縮を図りました。
- (2) 清掃や保育に関する職種については、割当の効率化並びに就業相談や内容の確認を行うコーディネーターを通じ、継続契約先への現場巡回を行いました。
- (3) 発注者の利便性向上のため、申込が特に多い植木・除草業務については引き続き WEB による受注を活用しました。

なお大型受注における地域班の展開事業は、以下のとおりでした。

	内 容	実人員
1	公園除草 (春)	208 人
2	ごみ袋無料配付	444 人
3	「ごみ収集カレンダー」全戸配布	369 人
4	公園除草 (秋)	203 人
5	「ちょこっと共済パンフレット」全戸配布	380 人
6	「まちだの教育特別号」全戸配布	394 人
7	プラスチック用ごみ袋配付	390 人

Ⅲ 安全・適正就業の推進

1 安全就業の推進

- (1) 植木作業中の転落による死亡事故が発生したことを重く受け止め、“安全は全てに優先する”の基本理念のもと、「安全就業基準」並びに「作業別安全就業基準」の更なる周知徹底を行い、組織一丸となって安全就業に取り組みました。一方で、保険該当事故の傷害は 6 件減少し、賠償事故は 1 件増加の合計で前年度比 5 件の減少となりました。

区 分	令和 7 年度	令和 6 年度	増減
傷害事故	14 件 (うち経路途上 5 件)	20 件 (うち経路途上 6 件)	(-) 6 件
賠償事故	9 件	8 件	(+) 1 件
合 計	23 件	28 件	(-) 5 件

- (2) 「安全フォーラム」を発行したほか、自転車安全利用リーフレットの配布等、全会員及び各職種グループに対する安全就業に関する情報の周知を行いました。また安全意識を高めるため、ポスター掲示や「安全標語」等の募集を行いました。
- (3) 就業時の安全意識の向上を図るため、仕事別グループの説明会や研修において、安全情報の提供を行いました。さらに、安全就業に関連した研修を入会時研修参加者(292名)のほか、職種別安全講習で計2回(植木班76名、除草班延70名)実施しました。さらに、(公財)東京しごと財団や第七ブロックが主催した研修には、計2回(5名)受講しました。
- (4) 会員の健康維持管理を啓発するため、「熱中症予防セミナー」講習会等の実施とフレイル予防リーフレットの配付、派遣業務に携わる会員に向けた個別健康相談会を実施しました。
- (5) 一部地域連絡会においては、高齢者支援センターにご参加いただき、「あんしん見守りキーホルダー」の周知や登録を行いました。
- (6) 安全意識の向上と事故発生時の対応につなげるため、緊急連絡先が記載できる「安全心得カード(オレンジカード)」の携行徹底や「就業における事故等対応マニュアル」の確認を図りました。
- (7) 酷暑期における就業・行動指針(ガイドライン)を幅広く職種グループに示すために、引き続き全会員に配付し周知しました。また、熱中症予防の啓発を目的に、窓口で塩分タブレットを配布しました。
- (8) 現場巡回を定期的に行い、就業前の準備運動の奨励や「安全就業基準」等に即した指導及び啓発活動を行いました。また、重篤事故となった植木剪定現場の緊急点検を17か所、各現場への「安全巡回」を計12回(25ヶ所)実施しました。派遣事業については、安全衛生法に基づく職場巡回を計12回(12ヶ所)実施しました。
- (9) 刈払い機使用における正しい養生の仕方や石が飛びにくい刃の使用に限定することにより、石飛び事故の防止を図りました。
- (10) 傷害・賠償事故に関連する会員(23名)に聞き取りを行い、再発防止策の検討を行いました。
- (11) 経路途上における事故防止や啓発のため、東京都及び「東京しごと財団」協力のもと「自転車シミュレーター講習」「自転車交通安全教室」を開催(延63名)しました。

2 適正就業の推進

- (1) 法令順守等の適正就業について国の示すガイドラインの理解を深めるため、会員には入会時研修を通じて周知し、契約者には書類等を通じ周知を行いました。
- (2) 長期就業の是正については、適正就業推進委員会を 4 回開催するとともに、施設管理希望会員に対するエントリーを 2 回行ない、173 名のエントリー中、長期就業交代者 28 名を含む 58 名の就業を決定しました。
- (3) 会員の能力に応じた就業、及び発注者に対する公平性を担保するため、除草に続き、植木剪定等の契約についても請負制度への移行を進めました。

IV 組織強化

1 組織強化

- (1) 定例理事会、臨時理事会を計 14 回開催したほか、書類による“みなし決議”を 10 回行ない、入会承認等の規程に基づく決議事項及び重要方針の決定等を行いました。
- (2) 専門委員会を毎月開催し、所掌事項の検討を行ったほか、役員・専門委員会委員合同会議を開催（32 名）し、情報の共有や連携の強化を図りました。
- (3) 地域班の役割等の確認のため、地区担当委員・地域班長研修を鶴川ポプリホールにて実施（68 名）したほか、役員・地区担当委員・地域班長合同会議を 2 回に分けて開催（85 名）し、事業報告を含めたセンターの現況・課題、また今後の方針について認識を共有しました。
- (4) 地域班相互の連携を深め、地域班活動をスムーズに行うため、地区担当委員と班長の合同連絡会や意見交換会を計 24 回実施（延 215 名）しました。
- (5) 地域連絡会を 57 班で開催し、延べ 223 名が参加しました。
- (6) 確実に速やかに情報を発信するため、業務システム「Smile to Smile」を利用した就業募集や諸連絡を行いました。

2 広報周知活動

- (1) ホームページについて、就業情報やボランティア活動、イベント情報などを発信したほか、申し込みの多い職種である植木・除草業務の WEB 受注をより効率良く活用するため見直しをしました。
- (2) 市の協力により「広報まちだ」への掲載（2 回）、パンフレット・ポスターの各施設への配架や町内会・自治会掲示板にポスター掲示（3 回）を行いました。また一部地域班活動として、家庭を中心にチラシ配布を行いました。

- (3) 多様な媒体を通じたセンターの認知度向上を図るため「銀齢だよりタブロイド版」(2回)の発行、地域情報誌「タウンニュース」(8回)に掲載したほか、「コンサートガイドまちだ」とのバーター掲載(6回)を行いました。また地域の市民センター(6ヶ所)に設置している町田市政情報「まちビジョン」で、デジタルサイネージCM放映を行いました。さらに、一部イベントや事業で、JCOM やイッツコム等のケーブルテレビに取材をしていただきました。
- (4) イベントについては、主催事業である「シルバー交流まつり」(来場者・参加者計 253 名)を開催したほか、共催事業として「シルバー展」(来場者 115 名)や市内の各種イベント(「まちカフェ!」「コミュニティ福祉フェア」「成瀬コミュニティセンターまつり」「鶴川地区協議会ハッピーフライデー」等)に参加しました。また、指定管理者事業の一環として、「わくわくプラザ町田作品展」(来場者 205 名)の開催や小学生向けイベント「わくわくプラザ町田 de 夏まつり」を実施しました。さらに、(一社)町田市文化協会の協力を得て、「町田市民文化祭」で特別コーナーを設置しました。
- (5) 全会員に対して、会報「銀齢だより」を 6 回配付し、センターの動向や会員活動等の情報共有を図りました。また地域班長向けには毎月「センター短信」を発行し、一般会員向けには「センター通信」をホームページに掲載しました。
- (6) 市民へのPRを図るため、屋外作業班を中心にビブスの貸与を行いました。
- (7) センターの認知度向上を図るため、わくわくプラザ町田に設置した「きんじょの本棚“銀の架け橋(昭和⇄未来)店”」では、累計提供冊数が 463 冊、貸出し数は延べ 763 冊になりました。
- (8) 設立 45 周年の記念事業として、「45 周年記念誌」を発行しました。

3 ボランティア活動の推進

- (1) “ボランティアの全員参加”を目指し、地域班を中心とした社会奉仕活動の推進を図り、「市内一斉美化清掃」や6つの地域ボランティア並びに町田市による駅前周辺の清掃キャンペーンへの参加、パソコン班による職種班のボランティアを含めて以下の実績となりました。

区 分	令和 7 年度	令和 6 年度	増減
延人数	1,401 人	1,538 人	(-) 137 人
実人員	342 人	363 人	(-) 21 人

	内 容	
1	地域班ボランティア（美化清掃・花壇管理） ＜旭町・本町田・原町田・玉川学園・小川・木曽（東・西）＞ 「町田・成瀬・鶴川・多摩境駅周辺ポイ捨て路上喫煙禁止 マナーアップキャンペーン」	延 508 人
2	市内一斉美化清掃（67 班）	271 人
3	町田ホームタウンチーム（FC 町田ゼルビア）試合運営支援等	延 246 人
4	日本赤十字社献血運動支援	延 72 人
5	学校支援活動	延 96 人
6	職種班ボランティア（パソコン）	延 40 人
7	図師小学校下校時見守り活動	延 168 人

- （２）ボランティアへの参加人員を増やすため、全会員に対してチラシ配布や入会時にアンケートを行い、希望するボランティアの登録の促進を図りました。
- （３）町田市ホームタウンチーム「FC 町田ゼルビア」の試合運営の支援を行いました。
- （４）町田市との協定に基づいた「高齢者見守り活動」並びに「空き家対策」について協力・情報提供をしました。
- （５）公益性の高いボランティア活動として「日本赤十字社献血運動支援」を、未来を担う子どもたちへの支援として、小学生を中心とした「昔遊び指導」や「下校時見守り」等の学校支援の活動を行いました。
- （６）文具類を含む日用品の収集と寄付等のボランティアについて、ノートや鉛筆等、約 29 点を地域で学習支援を行っている「スマイルこもんず」に寄贈しました。
- （７）募金活動について、「赤い羽根共同募金」「歳末たすけあい・地域福祉活動募金」のほか、「能登半島地震被災者支援募金」を行いました。
- （８）令和 6 年 1 月に起きた能登半島地震で大きな被害を受けたシルバー人材センターへの応援として、輪島市、珠洲市、能登町のセンターの小物販売を支援しました。また、能登町シルバー人材センター会員の来訪を受け、「シルバー交流まつり」において直接、梅干し等の販売をしていただきました。

4 財政の安定化

- （１）フリーランス法の趣旨を踏まえた「新たな契約方法」について、町田市との請負・委任契約は移行が完了し、副次的効果としての消費税の財政負担を大幅に軽減しました。

- (2) 会報誌「銀齡だより」紙面における一般有料広告について 3 社からの依頼があり、延 18 枠の広告掲載となりました。
- (3) LINE WORKS 等による迅速で安価な情報伝達手段を活用し、日常業務の効率化と経費節減に取り組みました。また、経費削減等の自助努力と並行しながら、行政に対して公的補助の維持・増額への理解を働きかけました。
- (4) 「Smile to Smile」の活用等によって業務全体のデジタル化を推進し、新たな契約方法への対応を含め、センターの情報伝達及び業務の効率化を図りました。

以 上